



ライト＝マンフォード往復書簡集 1926-1959

編集：B・B・ファイファー／R・ヴォトヴィッツ
富岡義人訳
鹿島出版会／2005 480頁 3,465円

帝国ホテルを設計した孤高の建築家フランク・ロイド・ライトと、「都市の文化」や「人間－過去・現在・未来」などの大著で知られる万能の哲人ルイス・マンフォード。彼らの間で30年あまりにわたって交わされた書簡の集成である。驚くべきことは、彼らの感性や表現の実に若々しいことである。とてもその年齢の人間が書いたとは思えない。「キャッチャー・イン・ザ・ライ」の主人公のようにナイーブに時代を見つめ、芸術を見つめ、人々を見つめ、そして闘いに意気を上げ、偽善に歯ざりりする。この彼らの視線は、建築を突き抜けて、政治、社会、そして人間性の復興へと向けられていく。

こんな詩文のような手紙の翻訳をどうやってねじ伏せたのか、その裏話を聞こうと思ひ、内線で訳者（彼は本学工学部建築学科助教授である）に聞いてみた。「そうなんです、本当に生き生きとしたやり取りなので、登場人物ごとに文体を変えてみたんです。対話の雰囲気を出そうと思って。ライトはシャーロック・ホームズ、マンフォードはワトソン博士ですよ。ご夫人がたはアイリーネ・アドラーで、秘書たちは執事の台詞のスタイルです。ほくはもともとファンでした。延原謙の旧訳の愛読者なんですよ」、だそうだ。マンフォードが少しかわいそうな気がするが、それはさておき、専攻分野を問わず学生にぜひ一読を薦めたい書物である。廉価なのもうれしい。

（森野捷輔）

2005年1月～5月 三重大学の主な出来事

（三重大学広報誌「Flash News」より）

詳しい情報を知りたい方は、
下記アドレスのページをご覧ください。

<http://www.mie-u.ac.jp/home/flash/index.html>

- 第22号
- 豊田学長からの「年頭挨拶」
 - 情報関係講演会(徳島大学-教育研究者DB、熊本大学-学務情報システム)
 - 目標チャレンジ活動・事務職員向け研修会を開催
 - NPO「地域開発研究機構」の認可
 - 社団法人国立大学協会東海・北陸地区支部会議（平成16年度第2回）が開催される
 - 地震防災シンポジウムと共同研究成果報告会
 - 留学生との交流懇談会
 - 「次世代ディスプレイ用機能材料の開発をめざして」
 - 第1回「島人がもてなすウエルネスの旅」
 - 「工学部特別講演会（分子素材）」を開催
 - C型肝炎レシピ集「テツトルーナ」

- 第23号
- 「三重大COE工学部プロジェクト発足シンポジウム」開催される
 - シンポジウム「大学が社会と産業の新たなパラダイムを構築するために」
 - 今年度2 回目のAPAN国際会議に参加
 - 三重県高等学校長協会との連絡協議会が開催
 - 天津師範大学からの訪問団来学に関して
 - シンポジウム「技術経営（MOT）人材育成」
 - 「津波避難マップづくり」県下ですすむ
 - 人文・工学部合同の防災訓練が実施される
 - 「世界の人口問題」講演
 - 「青少年のための科学の祭典」第2回三重大学大会

- 第24号
- 個人情報保護法に関する講演会
 - タカラハイオ株式会社と寄附講座設置に合意
 - 三重大学の教育の刷新を担う高等教育創造開発センターが設置される
 - 「知的財産教育シンポジウム・発明コンクール」開催される
 - 新たな国際インターンシップを目指しての訪中
 - 役員・部局長等のワークショップ開催
 - タスマニア大学太鼓クラブ
 - 梨花女子大学校とのドイツ語による学生交流
 - 事務職員の業務改善活動
 - 東南海・南海地震シンポジウム
 - 新医学部附属病院長が選出される

- 第25号
- 松阪高校で学長講演
 - 医学部の大学院が部局化
 - 「学長と学生との懇談会」が開催される
 - 三重大学国際シンポジウム
 - 斎宮歴史博物館と人文学部間で共同調査研究協定に調印
 - 第2回天津師範大学短期語学研修&文化交流
 - コンケン大学が訪問
 - ICカードに関する講演会(東京大学のICカード導入経緯及び現状)

- 第26号
- 「三重大学と放送大学で単位互換モデル構築の覚書」に調印
 - 「?」発見塾」三重大学シリーズの開催
 - 三重大学作業環境測定を学内の有資格者で実施
 - 三重県移動防災情報センター車「防災みえ号」の出発式と三重大学でのお披露目
 - 日米3大学を結ぶ遠隔授業の実践
 - カセサート大学より訪問団
 - 「最優秀授業賞」工学部機械工学科で表彰
 - 附属図書館の地域貢献活動から

編集後記

法人化2年目に入り、競争的資金獲得に向けた大学の戦略的システム構築が急がれています。そこで、今回は三重大学の研究戦略に焦点を当ててみました。再び落ち着いた研究環境を取り戻すためには短・長期の大学全体の戦略構築が急務ですが、このための会議の増大が現在の研究環境の悪化要因にもなっているという矛盾もあります。本号を通して、明日の三重大学に向けた教育・研究環境作りの努力が少しでも伝えられれば幸いです。

[発行]
三重大学広報委員会

三重大学総務部総務課広報室
〒514-8507 津市栗真町屋町 1577番地
TEL 059-231-9789 FAX 059-231-9000

<http://www.mie-u.ac.jp/koho@mie-u.ac.jp>

本誌掲載の文章・記事・写真等の無断転載はお断りします。
印刷・製本 株式会社 三見社